

日 時：平成 28 年 7 月 21 日（木）18 時 30 分 ～ 19 時 55 分

場 所：高木集落会館

対象地区：高木

参加人数：14 名

■意見交換

内 容
<p>○これまでの町会要望について (市民からの要望、質問) 今までの町会からの要望について、進捗状況を聞かせてほしい。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・平成 28 年度の要望に関しては、一つは側溝整備についてである。 市道尾上追子野木線の整備の延長をお願いしたいということだが、道路にはみ出した生垣の無償伐採の協力が得られるようであれば長期総合計画で実施できるように検討していく。ここに関しては、田んぼの方に行く水路を優先して整備しているのでそちらが先になる。・今現在は、同路線の桜庭商店側の方を測量している。担当課ではこちらが危険と思っている。桜庭商店側の調査設計、工事が終わった後に、昨年要望された向かい側の整備に移る。そこに関しては、サワラが道路にはみ出した部分があるが、その補償などについては工事で対応したりはしていない。ご協力いただけるのであれば工事していきたい。・平成 27 年、平成 26 年要望の市道高木社道線の整備は、居酒屋「紀」さん側に側溝を入れる形になります。どちらを町会として先に整備して欲しいのかということも踏まえて、調整しながら整備したい。・旧尾上の火葬場のところ（市道尾上火葬場線）の側溝が歪んでいるから整備してほしいという要望もあったが、両側側溝は整備されている。一部蓋がかかっている区間や、宅地への進入部分に段差があったりするが、側溝自体が傷んでいないので優先順位は落ちるかと思われる。・昨年要望があった中央公民館脇道路の草刈り。これは対応済みで、随時現場を見ながら職員で対応していく。・あと平成 27 年要望の「柳川」さんの奥（市道高木原富村中線）。一部側溝未整備の部分は、個人の土地になっている。相続等の問題が解決されたら検討していきたい。調査中のところをどのように整備していくかは他の町会とも調整をして、改めて関係者と話を進めていきたいと思う。

○個人宅への進入のための橋の撤去について

(市民からの要望、質問)

市道尾上追子野木線の堰に来年度から工事に入るとのことだが、そこに架かっている宅地に入るための橋は工事するときの橋の撤去費用は個人で出すことになるのか。

(市の回答)

- ・市で費用を出して撤去します。

○水路の橋脚について

(市民からの要望、質問)

高木みどりの会で、水路と農道の調査をしているが、市道尾上追子野木線と農業用水路とが交差する北側の水路の橋脚が割れてむき出しになっているところがある。危険なので確認してもらいたい。

(市の回答)

- ・県からも話を聞いており、今土木課で調査確認を行っている。

○愛宕神社内建造物等の整備について

(市民からの要望、質問)

昨年要望した高木神社の説明板について、その後どうなったか。

(市の回答)

- ・今年度、標柱設置の予算を組んでいる。教育委員会で審議会に付議してどこから設置するか検討することになっている。

(市民からの要望、質問)

最近世界的に博物館や遺跡が遺産登録されるなど貴重なものになっており、愛宕神社も史跡として有名なものであるが、危険が及んでいる箇所がある。高さ 30m ほどの落葉樹があり、危険なので撤去したいが、60～70 万ほど費用がかかるとのことであった。市として史跡を守るための補助は何かしらないものか。

(市の回答)

- ・他の町会にも同様の例があり、樹齢 300 年クラスの松の木がある。由緒ある木だが、掃除が大変なため、地元で伐採の見積もりを出してもらったら、高所クレーン車でないと撤去できないということがわかった。何とか市に補助してもらえないかという話になったが、町会や神社所有のものなので、神社の方で負担してもらいたいというのが、市の考えであった。市で介入するのは難しいところである。補助は今のところは無い。

- ・昨年婦人会の方と話をした際にも、地元の木が危ないから切ってほしいという話が上がった。中山間交付金事業やコミュニティの補助金を使って対応してくれないかということで足踏みになっている。

(市民からの要望、質問)

少しでもいいので補助がないものか。観光客もくるところなので、恥ずかしい状態にはしておけない。

(市の回答)

- ・今のところはコミュニティの補助金の有効活用しか思いつかない。町会の史跡を守るという名目で町会から出してもらおうなどするしかない。

○冬場の金田小学校への通学路の確保について

(市民からの要望、質問)

北山商店の通り（県道部分）に雪の投げ場所がなく、通学路を狭めていて危険である。何か対応策はあるのか。

(市の回答)

- ・以前から危険だという声はいただいている。県にきめ細やかな除雪と道路拡幅、現場を見ながら必要に応じて排雪の要望をしていくしかない。市として強く働き掛けていきたい。

(市民からの要望、質問)

県に働きかけるのはいいが、雪が降れば車の通行と通学で危険な状況となる。市として要望だけではなく、何か解決の具体案は示されないのか。

(市の回答)

- ・今のところ県への要望以外はない。
- ・以前から拡幅などの要望はあったと聞いている。県道金田尾上線、県道尾上日沼線が非常に狭く、冬は通行が難しいような状態になっている。そこについては県とも歩道の整備や拡幅について実施可能か話をしている。ただその路線は住宅が道路に密接している。道路事業として整備していくには、歩道については2m50cm、道路部についても2車線の車道が確保できないと歩道が設置できない。国の補助事業等でなければ事業化できないという現状となっている。実施するにしても、ほとんどの建物移転が必要となる。
- ・市としては、クリーニング店のところだけ側溝に蓋がかかっていないので蓋をかけてもらえないか要望を出している。あとは電柱について。民地の方に移設できないか。皆さんの協力が得られるのであれば、電柱を入れるだけでもだいぶ道路が広がるのではないかと思っている。今後、民地への移設ができないか確認をしていきたいと思う。

- ・ 駅に向かう方の道路は、今調査に入っている。両側の側溝と舗装について整備するように考えている。

○貯水槽について

(市民からの要望、質問)

自宅敷地の中に貯水槽の蓋が2つあるが、除雪のブルドーザーが通ったときに除雪した雪を蓋の所に上げていってしまう。もし除雪ができていなければ、火事が起きた時に大変なことになるのではないかと

(市の回答)

- ・ 現場を確認して、雪を上げないようにします。

○除雪について

(市民からの要望、質問)

桜庭自転車店のところは県と市の除雪になっているのか。段差があって大変である。もう少し丁寧に除雪してもらえないものか。

(市の回答)

- ・ 現場を見て段差がないような形でやっていきたい。

(市民からの要望、質問)

袋小路になっているところは排雪できないものなのか。行き止まりに雪を押しあって、また戻ってきても、雪が目いっぱいになっていて車が入っていけなくなる。

(市の回答)

- ・ 袋小路の道路については、ある程度溜まったら現場を見ながら排雪をしている。必要に応じて排雪していきたい。
- ・ 年間の除雪費1億6千万円については、排雪の費用は含んでいない。他市町村と比べると除雪が上手だという声もいただいている。時間に応じた報酬を支払う仕組みになっているので、丁寧にやっていただいている方だとは思いますが、生活に困るほどのことがあれば、町会長を通して市に申し伝えていただければと思う。

○貯水槽の耐用年数について

(市民からの要望、質問)

貯水槽に関してだが、耐用年数はどれくらいあるものなのか。メンテナンスはやっているのか。

(市の回答)

- ・耐用年数は50年。消防関係者の方で状態確認している。確認していく中で問題があるところに関しては整備していくことになる。

○要援護者の把握について

(市民からの要望、質問)

民生委員として活動しており、災害時には生活保護受給者等を優先的に見回っていくという課題があるが、一人ではなかなか回っていけない状況にある。援護を必要とする方の情報は個人情報に関わる部分なので口外しないように言われている。有事の時だけでも、町会長と相談したりして見回りをできないものか。

一人暮らしの方の見回りなどもしているが、新たに一人暮らしとなった世帯は把握できていない。市に尋ねてみても、情報を出せないということであった。どうしたらいいものかと思っている。

(市の回答)

- ・平成23年に要援護者台帳というものを作成した。一人暮らしの方や病気を抱えているという時に助けてほしいという方の連絡先等の情報を提出していただいていた。それを市側で台帳として管理している。その台帳の更新がされていないということで、もう一度確かめようと各民生委員さんを通して照会を行っている。台帳の取り扱いについて、高木町会の自主防災組織へ情報提供することを前提としていたが、実際は提供されていなくて、民生委員さんにしか渡っていなかった。福祉担当部門に伝達し、自主防災組織にも提供すべきものなので、ちゃんとしたものを作成してほしいとお願いした経緯があった。改めて作成されたあかつきには自主防災組織へもお渡しする。ただ、あくまでも自主申告方式で、自主防災組織に情報提供してもいいという同意を得た方ののみ情報をお渡しすることになる。同意を得ていない方についても、災害が起きて、いざとなった時には、市側から援護が必要な方についての指示が自主防災組織の方に行くように福祉担当部門と協議をしている。

○社会福祉協議会について

(市民からの要望、質問)

社会福祉協議会から、会費を納めてくださいと文書が来るが、会員になった記憶はない。どういった組織なのか。

(市の回答)

- ・毎年会員の更新をしていて、今年会員になったからと言って次の年もそうなるということではない。毎年社協の趣旨に賛同した人から会費をいただいて、運営をしている組織ということである。市でも関与しており、小回りが利かない部分を民間の利点を生かして細かく事業をしている。保育所であるとか、介護施設の運営等を行う、いわゆる社会福祉法人と同様の事業もしている。運営費の主たるものは会費であるが、市や県、国が

らも補助金も出ている。

- ・一人暮らしの方を対象にして、会食サービスということもやっている。そういった事業は会費で運営している。人件費相当は平川市から補助金として出している。介護福祉事業もやっており、その運用経費を会費で賄っている部分もある。
- ・高齢者福祉事業のみならず、赤い羽根等の募金活動も行っている。

○少子化対策の取組みについて

(市民からの要望、質問)

少子化対策として街コンなどいろいろ開催していると思うが、効果があがっているものなのか。

(市の回答)

- ・少子化、人口減少という問題は平川市のみならず全国的な課題で、去年12月に人口ビジョンに基づいて総合戦略を立てて、社会減・自然減という両方の面から対応すべく様々な取組をしているところである。今年度の予算の大きな柱として、まずは若い人に残ってもらうための仕事の間を作っていかなければならないというのがある。二つ目としては、この地域に残って暮らしてもらうということ。そして、若い世代の人が暮らしやすいような地域づくり。さらに、高齢の方も、元気で長生きできるような地域づくり。この4つの柱で社会減と自然減の対応をしていくわけだが、現在増えているかといえ、ここ2年間でみても減っていつている。毎年社会減と自然減を合わせて300人くらいずつ減っている。近年は、生まれる子供の数が200人前後で推移している。逆に亡くなる人は400~500人。若い人は就職または進学で県外に出て、こちらに希望する仕事があれば戻ってくるが、なかなか戻ってこない現状にある。
- ・平川市では子育て支援の取組を進めたことによって、弘前市近辺でも子育てしやすい地域だという評価が根付き始めている。2年前から、第2子以降の保育料無料化をしていることもあり、子育て住宅の支援等も利用しながら、市内に新しい住宅を建てる若い世代も増えてきている。保育料のみならず、学校教育や、安心して暮らせる環境づくりを含めた地域づくりをしていかなければいけないと考えている。
- ・若い人がなかなか結婚しない現状にあり、出会いの場が少ないということで、商工会などに委託しながら出会いの場を設けているが、カップルが少ない。そこで、弘前市で定住自立圏会議があった際に、弘前市で開催している合コンに登録してもらって出会いの場を広く求めてもらうという試みが話題にあがった。また、農業委員会等が、農村の青年たちに出会いの場を設けるような取組みもしているが、実際に結ばれるというのはそんなには多くない。ただ、何もしなければ出会いの場が無いという現実もある。
- ・市長、副市長と35歳以下の市役所職員と懇談会を行っているが、その際に女性の職員から、できれば同じ仕事をしている人と結婚するのが仕事内容の理解もあって望ましいが、同じ役所内の人よりも別の役所の方がいいなという意見があがった。様々考えなが

ら、若い人と一緒になって出会いの場を作っていきたい。

○市役所における人員管理の適正化について

(市民からの要望、意見)

人口が減っている中、市役所では人員削減や、人件費の適正化を考えているものなのか。合併して市になったことで一時的には人口が増えたかもしれないが、10年たったら旧平賀町と同じくらいの人口になってしまったと思うが、それでいて役所の機能が同じ人員というのはおかしいのでは。

(市の回答)

- ・現在、行政改革大綱の第三次の策定作業に入っている。平川市では地方交付税が3町村が合併前のままの恩恵を受けている。その恩恵が合併後15年で切れるが、ちょうど今年度、その財政上のメリットが少なくなる年に差し掛かっている。財政上のメリットも切れてくるので、当然人件費も削っていかなければということと計画をたてているところである。何人減らしていかなければならないかという精査はしていないが、合併してから100人前後は削減してきている。消防組織が統合されたのもあるし、平賀病院が診療所になったのも要因である。
- ・合併して、旧町村時代の役場の職員は513人であったが現在は325人になった。市民の皆さんで、できることはやっていただきたいとお願いしているのは、役所の職員も残業が結構あったりして、以前に比べれば忙しい思いをしている。役所の中でやるべきことというのは、市の将来に対しての指針の作成ということを中心にして、あとは市民の皆さんができることはやってもらいたいという思いがある。職員を減らしたことで基金がたまって学校整備等もできるようになったので、それはそれでいい面ではあるけれども、昔のように困ったらなんでも役所に頼めばいい、ということは難しくなっている。自分たちのなかで評価して政策を作ってもらいたいというのが正直なところである。役所の力を高めて、市民の皆さんにもやれる部分はやっていただいて、平川市を一步でも二歩でも前進させていきたいと考えているのでご理解をお願いしたい。